

「たんぼにまつわる話」34.

「原のホタルと大久保のホタル」

岡山市 十川 巡一

やがて大久保から出て行く日が来ました。私が高校2年になった時、父が原（JR津山線で岡山から二つ目の駅）に新居を構えました。大久保へ帰ったのも、父が結核で入院したためでした（大久保は母の実家）。

本当に楽しい毎日でした。大久保ではたんぼや自然から多くのものを学びました。いつまでも住（棲）んでいたかったと思いましたがそうもいきません。

原に引越してきた時は、家の前に用水路と一本の道があるだけで周りは全部たんぼだったので驚きました。大久保では家から離れた所に棚田があったのですが、原では平地の為家の近くにたんぼがあったのです。

その頃、田植えの時期が来ると大久保まで手伝いに行っていました。祖父が亡くなってから、3年ほどするとたんぼの作業も、しなくなりました。

昭和38年頃は、家の前の用水路には、きれいな水が流れていて、毎年沢山の蛍が舞いました。ヘイケボタルもゲンジボタルも沢山のいました。夜になると町の方から車で来てホタルを捕って帰りました。家に持って帰っても四日程で死にます。そこで家の前だけでもと思い、私は草の上を軽く手で叩きバケツで受けて沢山のホタルを捕ってよく庭に放しました。

次の年の5月上旬だったと思いますが、雨がシトシトと降るある夜のことでした。何千、何万というホタルの幼虫が川の石垣を一齐に這い上り道を横切りたんぼの方へ這って行っているではありませんか。目を疑いました。まるで天の川が落ちてきた様な光景でした。長い間ジーと見ても飽きませんでした。時おり通る車の憎らしかったこと。なぜこんな時に通るのかと腹がたちましたが、なすすべもありませんでした。

しかし、6月中旬になると何事もなかったかのように沢山の蛍が、舞いました。

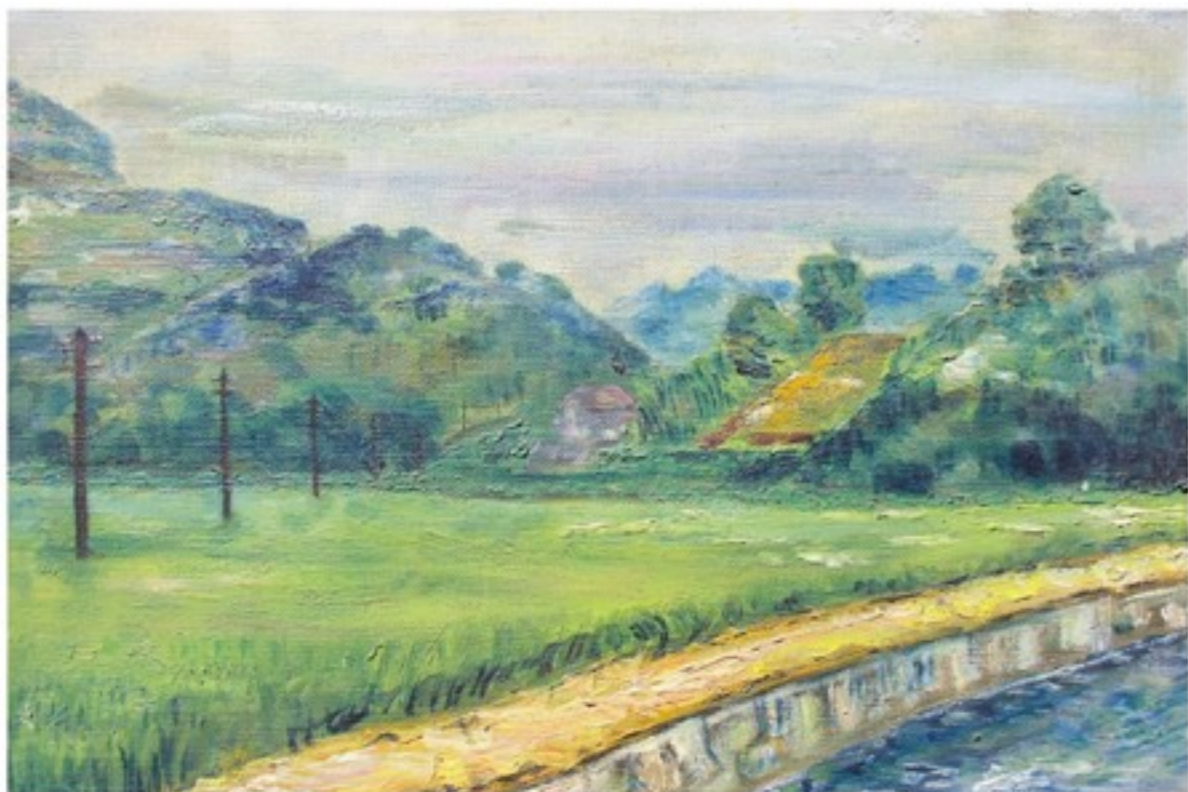
ホタルの幼虫は4月下旬から5月中旬にかけてのなまあたか小雨の夜、水の中から一齐に這い出てたんぼの傍の柔らかい土の中に潜って蛹になり、約40日過ぎた頃から羽化します。

大久保に住んでいた頃、家に帰る道の傍の谷で少し見かけたホタルは、小さかったのでヘイケボタルだったと思います。

子供の頃にはホタルと言えば旭川（本流）にいるものだと思っていました。ゲンジボタルのことです。昔は、今のようにツルヨシは生えていなかったし、川原は石ころだけで、わずかにヤナギタデやネコヤナギがはえていただけでした。その為、ホタルは川の傍にある竹やぶで光っていました。

みんなで相談して夜集まり、一度だけ子供達だけで舟に乗り、ほうきやアミを持って竹やぶの高い所にいるホタルを捕まえに行ったことがありました（凄いですね！その頃の村の子ども何人かは竹竿をあやつり上手に舟を漕いでいたのですよ）。また、たくさんのカジカガエルの鳴き声も夏の風物詩でした。私が大久保からいなくなって数年たつと、子供達が走り回って遊ぶ光景は見られなくなり、カジカガエルの数も減って鳴き声を聞く機会も少なくなりました。

今住んでいる家の前の用水路は、20年前に突然御影石の石垣の上からコンクリートで固めてしまわれた為、翌年からは一匹のホタルも舞うことはありません。山ぎわにある棚田の側を流れている磯尾谷川にヘイケボタルがわずかに舞っているだけです。



家の前から描いた絵 左の山が三野公園 昭和38年7月頃



自宅の二階から見た現在の家の前の様子